

日本地図作成 長久保赤水を紹介する映像作品完成 高萩

05月26日 10時38分



江戸時代に今の高萩市に生まれ、広く使われた日本地図を作ったことで知られる長久保赤水を紹介する映像作品が完成し、市はYouTubeで配信するなどして多くの人に赤水について知ってほしいとしています。

長久保赤水は水戸藩の儒学者で、江戸時代、各地の地図や資料を基に日本地図の作成を手がけました。

この赤水の地図や文書など693点が去年、国の重要文化財に指定されたことから、出身地の高萩市は、多くの人に赤水の功績を知ってもらおうと映像作品を制作しました。

作品はおよそ50分で、狂言師の和泉元彌さんが長久保赤水を演じ、赤水の学問にかけた情熱や日本地図を完成させるまでの奮闘などが描かれています。

今月22日に行われた映像のお披露目会では、新型コロナウイルスの影響で会場に来ることができなかった和泉元彌さんからのメッセージ動画も上映され、和泉さんは「この作品が、今と未来を生きる若者たちと300年前の赤水氏が出会うきっかけになることを願っています」と話していました。

作品は、ことし7月以降にYouTubeの高萩市の公式チャンネルで配信するほか、市内の図書館ではDVDの貸出を予定しているということです。

高萩市教育委員会生涯学習課の田中達仁さんは「作品を通して赤水の功績だけでなく、その生きざまについても知ってほしいと思います」と話していました。